

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	人文社会特論A		
英文授業科目名	Researches in Humanities and Social Sciences A		
開講年度	2006年度	開講年次	3、4年次
開講学期	6、8学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	倉橋 良伸		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
(a) 主題： ビザンツ帝国と地中海世界の変容 (b) 達成目標： ビザンツ(東ローマ)帝国の成立過程とイスラームの台頭

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
歴史学

<b>【教科書等】</b>
教科書は、歴史学研究会編『古代地中海世界の統一と変容』青木書店。その他、講義内容の理解に役立つと思われる参考図書を適宜紹介していく。これらは、自分の興味・関心に合わせて読めば良い。

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

講義形式。教科書以外に毎回の講義内容をまとめたプリントを配付する。歴史学の続編であり、ビザンツ（東ローマ）帝国史を題材として、やはり毎回、基本的には時系列に沿いながら、時代ごとに中心となるトピック（ゲルマン民族の大移動・西ローマ帝国の消滅・イスラームの台頭・ビザンツ帝国への変質など）を設定する。

7世紀に起きたイスラーム勢力の地中海世界における台頭、そしてそれにとまなうローマ帝国からビザンツ帝国への変質を中心に扱う予定。まずは、西ローマ帝国の滅亡後の地中海世界はどのようなものであったか、イスラームが台頭する直前の状況はいかなる様相を呈していたのか、というところから見ていく。

ここでも細部に固執するのではなく、歴史のダイナミズムを観察することを主眼とする。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

論述形式の学期試験を実施する。その際には教科書や講義プリントなどの持ち込みを可とするが、前もって内容が理解できていないと、単位を取得するのは困難である。ともかく長々と年表のように歴史的事実を並べてみても、それは歴史学に関する論述ではない。歴史的文脈を把握することの意味を理解して欲しい。

### 【オフィスアワー：授業相談】

授業時に

### 【学生へのメッセージ】

歴史学と基本スタンスは同じです。追加するなら、新たな論点としては次のものがあります。まず、「後期ローマ帝国」という名称は皆さんには馴染みの薄いものかもしれません。「ビザンツ帝国」と呼んだ方がまだ思い当たるでしょう。西ローマ帝国の滅亡をもってローマ帝国の終焉と考えるのは早計です。それでは、古代地中海世界だけでなく、それに続いた中世ヨーロッパ世界の実体がいかなるものであったかも見失うこととなります。

ビザンツ帝国は、その姿を大きく変えながらも1453年まで存続します。ローマ（帝国）からの連続性を重視すれば、約2200年間も続いたことになるのです。その驚異的な生命力の源を知るためには、ローマ帝国からビザンツ帝国への移行期に位置する7世紀を観察する必要があります。

それは、ヨーロッパ世界が古代から中世へ移行する時代とも重なります。さらに、キリスト教世界とイスラーム世界の相克という図式を生んだ時代でもあります。

### 【その他】